

長崎県漁業協同組合連合会長賞

魅力ある漁村地域部門



受賞者名：おおせとちょうぎょきょう 大瀬戸町漁協 ぶかい タコ部会

市町名：西海市

主な取組：蓋付タコツボの使用制限、産卵ツボの投入等によるマダコの資源管理及び経営の安定化

1. 取組の概要

大瀬戸町でのたこつぼ漁業の発展を目指し昭和44年に発足して以降、産卵ツボ設置によるマダコ産卵場の造成や漁獲効率が高い蓋付ツボの使用制限、小型個体の再放流などの自主的な資源管理によりマダコ資源の持続的利用への取組を継続して実施している。

産卵ツボの設置においては、県総合水産試験場の協力のもと、海水温の推移、産卵状況の把握、砂に埋もれにくい岩盤付近への設置、海底で転がりにくい蒲鉾型のツボの利用など効果的な手法をとるなど、資源管理に積極的に取り組んでいる。

限られた資源を公平に利用するため、漁場をくじ引きで決定し、部員同士の漁場利用と水揚げの公平性を保っている。

部会自らマダコの価格交渉に参画するとともに、漁協と連携して活魚出荷が主体であったマダコをボイル加工品「糸べす蛸」として商品化し、マダコのブランド化や認知度向上による販売量増加などにより経営力強化も図っている。



産卵ツボの投入準備



ボイル加工品「糸べす蛸」

2. 受賞理由

50年以上にも亘るマダコ資源に関する自主的取組を継続し、大瀬戸町漁協の水揚げの1/4を占める漁業へと牽引したことに加え、マダコ資源の持続的な利用に向けた水産試験場と連携した効果的な産卵場の造成やくじ引きによる公平な漁場利用など、次世代へ繋がる取組として地域への貢献度が大きい点が評価された。

部会が価格交渉に参画することでマダコの単価が約30%向上し、ボイル加工品の「糸べす蛸」の販売量増加などにより部員の経営力強化が図られており、16経営体中4経営体が後継者を確保するに至っている。



操業風景（S40年代）



操業風景（現在）



陸揚げされたマダコ